

「小児科用語集」第二版の編纂にあたって

「小児科用語集」は1994年に当時の用語委員会（赤塚順一委員長）の元で編纂され金原出版株式会社から刊行されましたが、その後2003年に補遺が刊行されたことを除き改正改訂が行われてきませんでした。

その後医学の進歩に伴って、新たに生まれた医学用語もあれば、以前繁用された用語で現在では不適切になったものも数多くあります。この間、WHOが策定している International Classification of Diseases (ICD)はICD-10へ改訂され、現在はさらにICD-11への改訂作業が進んでいます。また日本医学会からも医学用語辞典（英和）第3版が刊行されました。

医学用語の使い方を整理し標準化することは、卒前卒後の教育や国家試験や専門医試験の問題作成にも必要ですし、学会誌に投稿される医学論文の執筆においても拠り所となります。もちろんのことですが、日常診療の中で適切な用語を用い不適切な用語を避けることは、医療従事者同士のコミュニケーションの向上に繋がるだけでなく、疾患病態について患者家族や社会全般に誤解や偏見を与えることを防ぐことにも役に立つと考えています。

そこで、今回小児科用語集を改訂するにあたって、以下の方針で臨みました。

- 1) 本用語集では、会員の日常診療（含、診療記録の記載）、医学部の卒前卒後の教育（含、教科書の執筆）、臨床研究（含、論文執筆）、医療行政（含、行政文書の作成）に有用な用語の収載を行うことを心掛けました。また学会誌投稿論文の執筆、国家試験や専門医試験の問題作成における拠り所としてもらいたいと思います。
- 2) 本用語集の編纂は、ユーザーである会員にフレンドリーであることを目指しました。例えば、現在では用いられなくなった用語でも古い文献を読むと出て来る用語は収載してその旨を表記しました。また複数の訳語が当てられる場合には、推奨するものだけを載せるのではなく、不適切なものもあえて載せて「使わない方がいい」ことを表明しました。
- 3) 日本医学会医学用語辞典第3版（2007年3月、南山堂）に準拠しましたが、そこに収載されていない語であっても小児科にとって必要と思われるものは含めました。逆に専門的すぎて小児科との関連の少ないものは収載しませんでした。また複数の訳語が当てられている場合は小児科の立場で適切

と思われるものに絞りました。

- 4) 本用語集は辞書ではないので、用語の解説は行いませんでした。
- 5) 医学の進歩や社会情勢に応じて用語の使い方は常に変化していくことを踏まえ、今回の改訂 (revision) の後もほぼ毎年改正 (update) していくつもりです。
- 6) 改訂改正に即応し、また広く会員に利用してもらうために、印刷物としてではなく、インターネット上で利用できる形にしました。
- 7) 用語集の改訂改正には会員から広く意見を求め、適宜それを反映させていただきます。そのために、意見や要望がある場合には随時メールで用語委員会まで送っていただき、その中で広く会員の意見を求めて議論を深める必要があると判断された場合には、学会ホームページ上の掲示板で意見募集を行うことに致します。

繰り返しになりますが、この用語集は完成品としてご提供するものではありません。会員の皆様に広く利用していただきながら、ご意見やご批判を頂戴し、さらに利用価値の高い用語集へと発展させるつもりです。

なにとぞ学会員の皆様の声をお寄せいただけますよう、お願い申し上げます。

最後に、用語委員会の開催運営、そして用語集の編纂のためにご尽力いただきました日本小児科学会事務局の方々、特に諏江昭男氏、土居眞理氏に心より御礼申し上げます。

2009年7月

日本小児科学会用語委員会

森内浩幸 (委員長)、船戸正久、濱岡建城、橋本俊顕、西村真一郎、坂本龍雄、芳野信、服部元史、河野斉、森内浩幸、江口博之、須磨崎亮、伊藤進、石井拓磨、星加明德、和田恵美子、原光彦、森雅亮、檜山英三、中野貴司、板橋家頭夫、浦上達彦、大日方薫、大塚頌子、小島勢二

担当理事

脇口 宏、山口清次

凡例

1. 本用語集の構成

本用語集は、英和篇、和英篇、略語篇の三部からなり、英文、和文、略語のそれぞれから検索することができる。

2. 用語の取り扱いについて

1) 英文用語

- ① 収載用語は英語を原則とするが、ラテン語など他の外国語でも一般によく用いられているものは含める。
- ② 英語は米国式を基本とする。
- ③ 英語以外のアルファベットのうち、インターネット上で表示不可能なものは、以下のように読み替える。(ä→a·, é→e', ö→o·, ü→u·)
- ④ 単数形を原則とし、複数形の呈示が必要な場合には (pl.) として表示する。
- ⑤ 複合語は、日常よく用いられ、一つの語として定着しているものに限って収載し、基本語の組合せで訳語が得られるものは省略する。
- ⑥ 人名を冠する用語では「's」を省略する。
- ⑦ 「a」「the」などの冠詞は省略する。
- ⑧ 生物学名はイタリック体とする。
- ⑨ ギリシャ文字は該当する英語の綴りで表記する。
- ⑩ 和文用語に対して複数の英文用語がある場合には「/」でつないでいる。

2) 和文用語

- ① 日本医学会医学事典（英和）第3版の和文表記を基本にしている。
- ② 常用漢字や表外漢字に含まれない場合でも、基本的には漢字表記とする。
- ③ しかし総画数の多い漢字で、平仮名表記が一般化しているものは平仮名のみ用いる（例：鬱→うつ、譫→せん）。
- ④ 外来語、生物学名、物質名、ギリシャ文字はカタカナ表記を基本とする。
- ⑤ ただし、人名は基本的に原語表記のままで示し、カタカナ書きにはしない。
- ⑥ 英文用語に対して複数の和文用語がある場合には「/」でつないでいる。

3. 記号一覧

本用語集で採用した記号の一覧を示す。

- 【奨】 推奨語であることを示す。
- 【不適切】 差別語と認識されているなどの理由で不適切と考える語であることを示す。
- 【旧】 現在では使用されなくなった語であることを示す。
- 【東洋医】 東洋医学用語であることを示す。
- 《 》 捕捉的な説明などに用いる。